

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300035
法人名	社会福祉法人 正和会
事業所名	九島グループホームやすらぎ
所在地	〒798-0098 愛媛県宇和島市蛤95番地3
自己評価作成日	平成23年8月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは市内から目と鼻の先にある九島という漁業とみかん、レモン、キウイ等の柑橘類の栽培が盛んな島にあります。当施設の周囲はみかん畑で、目の前はすぐ海というのどかな風景の中にあり、天気の良い日は正面の鬼ヶ城から美しい朝日が昇ってきます。島の方々は温かく、ホームのことを気にかけてくれます。ホームの特徴は入居者だけでなく職員もほとんどが島の方で、昔からの馴染みの関係ができています。また、高齢化が進む島にある唯一の高齢者施設ということで、地元の期待も大きいと感じています。「笑顔と真心でやすらぎを」という基本理念のもとで、いつも利用者職員との笑顔が絶えない、地域からも愛される空間を創っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

東日本大震災時、地域に津波警報が出た際には、津波が到達するまで時間があつたため、炊飯ジャーのご飯とふりかけ、お茶、毛布を持って車で高台まで避難された。今後、起こると予想されている南海地震では、津波が20分くらいで到達することが予想されており、事業所では、持ち出し品については、職員で話し合い一覧表を作り、現在、準備を始めているところである。
島内から入居されている利用者も多く、ご家族とご自宅に帰り、掃除や衣服の整理、墓参り等をされる方もいる。診療所の受診の際には、友人や同級生に会うこともあり、受診後、一緒に事業所に来られておしゃべりして帰る方もいる。入居前、併設デイサービスに通っていた方もおられ、又、友人が通って来られることもあり、時々デイサービスに行き過ぎて過ごされる等、行き来がある。短歌の会で活動されていた利用者を中心に、事業所に以前のメンバーが集まり会を開くことも計画されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームやすらぎ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

舟田 達也

評価完了日

平成23年 8月 18日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の基本理念に基づき、グループホームやすらぎ独自の介護目標を毎年度作成している。	
			(外部評価) 法人の「笑顔と真心でやすらぎを」の理念のもと、全ての職員で話し合い、今年度、5項目の介護目標を作成して取り組みをすすめておられる。「地域との交流を通じて地域のニーズを把握し、みなさんの期待にこたえられるよう努めます」という目標に向けて管理者は、今後「認知症サポーター講座を開き、地域の方達に認知症の理解を広めていきたい」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域との連携に努めている。地域行事等への参加を通じ、地域の幼稚園、小学校、ご近所との交流に努めている。	
			(外部評価) 自治会の回覧板は、利用者と職員で次のお宅へ回すようにされている。回覧板で、地域の害鳥獣駆除日や島内にある井戸の掃除日、し尿処理日等、地域の情報を知り得て、利用者の受診時間等を検討する際に役立てておられる。小学校の運動会や公民館の行事等に出かけられたり、公民館で踊りの発表会があった際には、後日、事業所でも披露してくださっている。近くの「バラ園」の見学やお大師様へのお参り等もされている。宇和島の花火大会には、事業所前の道に椅子を出して、地域の人達と一緒に楽しまれた。地域の方からもらったひまわりの苗を利用者が大切に育てられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 電話や訪問等による相談にその都度応じている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議で、事業所の取り組みや入居者の生活状況を報告する機会を持ち、地域からの事業所に対するご意見等を頂いたり、事業所からも地域の方に協力をお願いしたりしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者、ご家族、地元の自治会長、民生委員、消防団の方、市議会議員、市の担当者等、いろいろな立場の方が出席してくださっており、島外から出席して下さる方は、事業所所有の車で送迎をされている。会議メンバーの方々が出席しやすいよう、会議は、第3火曜日の午後からと決めて開催されている。会議時には、事業所の活動報告を行い感想をお聞きしたり、災害時の連絡体制の見直しをされたり、利用者の緊急搬送時等には消防団に協力をいただけるようお願いをされている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市圏内のグループホームが共同で連絡会を立ち上げている連絡会を通じ定期的な交流の機会を設けている。また、運営推進会議に市担当者に参加して頂き情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 地域の方から介護保険サービスの利用について相談を受けた際には、市の窓口につなげておられる。運営推進会議時には、東日本大震災で地域に津波警報が出た際、利用者職員で避難した実際の様子を報告された。事業所は体験にもとづき、市からの情報発信について等、意見や要望を出されて、市の担当者は、担当の部署に報告して下さった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束禁止の研修を受け、意識付けを行っている。日中、玄関の鍵は施錠していない。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人内研修に参加して身体拘束や虐待について、毎年勉強されている。研修後は、職員会で研修内容を報告し、日頃のケアを見直すようにされている。利用者の行動が把握できていない間は、居室の掃き出し窓にチャイムを設置して、利用者が窓から出る時には鳴るようにされている。利用者の行動の傾向が把握できたら、チャイムをオフにして見守っておられる。夜間時、外に出ようとされることが多い利用者には、日中の活動を多くして夜間よく眠れるように支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で高齢者虐待防止に関する研修の機会を持っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修で学ぶ機会を設けているが、この制度に触れる機会が少なく、職員全体として知識が低い。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に、本人及び家族と十分に話しあう機会を持ち、説明を行い、納得の上で契約を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時、ご家族宅への訪問時や手紙、電話等で入居者の現状をお伝えし、入居者、家族からご意見を伺っている。意見、要望等を運営推進会議で報告し、意見を求めるようにしている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、フェリー乗り場への送迎をされる等、来ていただきやすく配慮されてる。利用者の預かり金の報告は、3ヶ月毎の介護計画の説明時とともに口頭で報告されており、残高が多い場合は報告を延ばしておられる。法人全体の便りが、年2回発行されており、事業所の活動等も載せておられる。	今後、事業所独自で季節毎に便りを発行することを計画されていた。ご家族が知りたい情報等を探り、ご家族が事業所のことを知り、具体的に意見や要望、気が付いたこと等表せるよう働きかけを工夫していかれてほしい。利用する側であるご家族からの意見をもとにして、事業所のサービスの質の向上につなげて行かれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的な会議、ミーティング等、スタッフの意見を聞く場を設けている。	
			(外部評価) 職員は、法人内研修や事業所団体が開催する研修等を受けて、職員会議で内容を共有されている。管理者は、職員個々の雇用契約更新時や半年、又は、1年毎に話し合う機会を作って、意見や要望を聞いておられる。職員からの提案で水分摂取量の記録についても見やすく、分かりやすいように工夫されていたり、居室の換気や掃除等についても職員で支援等についてアイデアを出しながら、取り組みをすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者に対する処遇改善を図り、職場環境・条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間の研修計画を作成し、研修への参加の機会をできるだけ確保し、自己啓発につながる支援を行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 圏内のグループホーム連絡会、地域密着型サービス協会を通じて、他事業所との交流の機会を設けている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用相談があれば、ご本人に会い、その方の現状を把握し、ご本人の意向や気持ちの理解に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用相談のときに、ご家族の困っている状況を伺い、不安の解消に努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用相談時にご本人、ご家族の話を伺い、当GHを利用するより良い方法があれば他事業所への紹介等を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者と共に、掃除、畑の手入れ等を行う中で支えあう関係を構築できるよう努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と連絡を取り合い、共にご本人を支えていけるよう努めている。ご家族と連絡を取り合い、定期的な外泊や随時の外出の支援をしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 島内の馴染みの場所での買い物や、島内の散歩をしながら島内の方と会話をする機会を持っている。馴染みの方々が来易いようにスタッフが送迎をしている。 (外部評価) 島内から入居されている利用者が多く、ご家族とご自宅に帰り、掃除や衣服の整理、墓参り等をされる方もいる。診療所の受診の際には、友人や同級生に会うこともあり、受診後、一緒に事業所に来られておしゃべりして帰る方もいる。入居前、併設デイサービスに通っていた方もおられ、又、友人が通って来られることもあり、時々デイサービスに行き来される等、行き来がある。短歌の会で活動されていた利用者を中心に、事業所に以前のメンバーが集まり会を開くことも計画されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いの関係の把握に努め、その都度状況に応じてスタッフが支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了したり、入院等で中断した時は、家族、本人とこれからの生活について話し合い、その都度、相談に応じている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の希望や意向を伺いながら、できる限り応えている。対応が困難な場合はご本人に説明をしている。意向を上手く伝えることが困難な方については、毎日の生活の中でのコミュニケーション通じて気持ちを汲み取ることができるよう、情報の共有に努めている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中の場面で、利用者一人ひとりの意向や暮らし方の希望を聞き、自分でできること・職員と一緒にできること等を把握して支援につなげておられる。晩酌を楽しむことを希望される利用者に対応される等、これまでの暮らしを続けられるような支援に努めておられる。意思表示の難しい利用者には、言葉や仕草で把握するようにされている。日記や出納帳を付けることを続けておられる利用者もサポートされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前の面談の際にご家族やご本人、サービスを利用していた事業所等からお話を伺い、把握に努めている。利用後はご本人との関わりの中で、情報収集に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者個人個人の生活リズムを把握し、各スタッフで情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の意向を確認し、1ヶ月に1回はかかりつけ医を受診し、健康面のチェックをして頂いている。そして、3ヶ月に1回職員内のサービス担当者会議にて検討し、計画の見直しを行っている。面会に来にくい島外に住んでいる家族については、電話や手紙にて意向の確認をしたり、プランの説明をしたりしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者が「よく言われること」や、暮らしへの希望等をもとにして、ご家族等の要望等や、必要に応じて、かかりつけ医のアドバイスも踏まえて作成されている。「自分でできることは、自分で行いたい」と思っておられる利用者の方には、自室の掃除や布団の片付け、花の水やり等ができるよう、職員がサポートすることが計画に盛り込まれていた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護経過記録及び日誌、引継ぎ等にて情報を共有している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人や家族の希望にはできる限り応えるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティア、小学校、幼稚園との交流会や民生委員、自治会で協力を得ている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 島内の診療所にスタッフが付き添い、定期的に受診している。入居者さんの状態によっては往診をしてもらうこともある。島外の病院を受診する際は家族に相談し、付き添いをお願いすることもある。	
			(外部評価) これまで診てもらっていた島内の診療所を続けて受診されている利用者が多い。診療所の医師は、緊急時の対応や往診も可能である。ご本人の体調とかかりつけ医の診断によっては、島外の病院の受診が必要な場合もあるが、ご家族と連絡をとりながら、適切な医療を受けられるように支援されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 当グループホームの担当看護師に定期的に訪問を受けている。また、診療所の看護師さんにも相談に乗ってもらいながら、入居者さんの健康管理を行っている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者の入院時は医療機関に情報提供を行っている。また、適宜の訪問、連絡をすることで情報交換を行っている。入退院時以外では、病院の連携室から入居依頼の相談に応じている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に向けた指針、看取りの指針は整備し、家族への説明を行っている。ご本人の病状の進行の際に家族に事業所でできることを説明し、意向を確認している。	
			(外部評価) 体調に変化があり、島外の病院を受診された利用者がおられたが、入院には至らず事業所でご家族や診療所の医師・デイサービスの看護師等と連携しながら看取られた事例がある。ご家族には、事業所での看取り支援について、リスク等も十分に説明して、ご家族等の意向等を踏まえて介護計画を作成され、みなで共有して支援された。看取りを経験して、管理者は、細やかな観察の必要性や記録をとることの大切さを感じられたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な研修、訓練は受けることができていない。随時、看護スタッフにアドバイスを受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急事態に対するマニュアル、緊急連絡網を作成している。地元の消防団の協力を得られるようお願いしている。年2回の避難訓練を実施している。	実際に体験されたことにもとづき、利用者職員のさらなる安全安心に向けて今後も、事業所で備えていかれたり、又、いろいろな方の災害への認識や理解を高められるよう、事業所の体験を広く発信していかれてほしい。
			(外部評価) 避難訓練を実施して、いざという時の体制について見直された。散歩の際には、近くの避難場所に行ってみられたり、道順や時間等も確認されている。訓練の際には、地元消防団の方にも参加いただき、事業所の様子を知っていただいた。東日本大震災時、地域に津波警報が出た際には、津波が到達するまで時間があつたため、炊飯ジャーのご飯とふりかけ、お茶、毛布を持って車で高台まで避難された。今後、起こると予想されている南海地震では、津波が20分ぐらいで到達することが予想されており、事業所では、持ち出し品については、職員で話し合い一覧表を作り、現在、準備を始めているところである。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者、スタッフも島内の方なので、事業所内外での個人情報の取り扱いについては職員に周知できている。	
			(外部評価) 職員は、新人研修の際に理念、接遇、権利擁護、秘守義務について等の研修を受けるようになっている。職員の利用者に対しての言葉のかけ方によっては、気にされる方や傷つくようなこともあるため、職員は特に気を付けるようにされている。便りの写真等、共有空間への掲示物については、ご家族の同意を得ておられ、調査訪問時、利用者の居室を見せていただく際には必ずご本人にお聞きしておられた。毎日下着を自分で洗って居室に干しておられた利用者が現在、ベッドで療養中であり、ご本人がしておられた通りに、職員が代行して行っておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中での関わりを通じて、入居者の自己決定を促すことができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の生活の基本的な流れはあるが、入居者の希望や状況に合わせてできる限り対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも相談しながら、ご本人の好みに合わせた身だしなみができるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けは入居者と一緒に行っている。2ヶ月に1回、ボランティアで栄養士の方が2名来られて、料理教室を実施している。	
			(外部評価) 昼食は、併設デイサービスの厨房で作られた食事が届くようになっている。食事の前には口腔体操をみなで行い、職員がホワイトボードに献立を書いて、利用者が食事内容をみなに読み上げて知らせようになっている。利用者によっては、お好みのポン酢や紅ショウガ等、好きなものを準備しておられる方もみられる。畑で採れた野菜で利用者と即席漬物を漬けたり、ご家族からお刺身やとろろの差し入れもある。調査訪問時、管理者は持参したお弁当を利用者と一緒に食べておられた。下膳される利用者やエプロンをしてコップを洗ってくださる利用者の様子もみられた。料理のボランティアの方と一緒に、9月には巻きずしやバラ寿司を作り敬老会を行うことを計画されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや嚥下状態、病状に合わせた食事の提供に努めている。水分補給も同様に、個々の好みや状態に合わせて提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後に口腔ケアを実施し、誤嚥の予防に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者の日々の排泄状況を把握し、その方に合った支援ができるよう努めている。	
			(外部評価) 布パンツで過ごすことを希望される利用者には、失敗があった場合は、ご自分で下着を入れられるよう居室にバケツを用意して、配慮した対応をされている。トイレにお誘いする場合、直接トイレに誘うのではなく、居室まで案内していただき、途中トイレの前で「トイレはありますか」と声をかける等、工夫をされている。居室にトイレがある人は「夜はここです。近くて安心です」と話してくださった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の把握に努めている。個々の好みに応じて(ジュース、スポーツ飲料)摂取を促している。便秘時は下剤で対応している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者個々の意向は確認しているが、時間帯は設定させてもらっている。畑作業等で汗をかいたときは随時シャワーを浴びている。	
			(外部評価) 午前中の一番風呂を希望される利用者もあり、職員は一人ひとりの希望に沿った入浴支援に努めておられる。時には、利用者2~3名で併設デイサービスの浴槽に入浴剤を入れて温泉気分を味わうこともある。浴室に時計を置いて、ご自分で時間を見ながら入る方や固形の石けんを使って体を洗う方もいる。シャンプーやボディーソープには、大きな文字で身体用、頭用と書かれてあり、利用者に分かりやすいようにされていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者の状況に合わせ畳を使用したり、不安がる入居者は部屋のシャッターを閉めて休んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法、用量が変更される時は、薬の作用、副作用について各スタッフに伝えている。処方箋を個々のファイルに綴じている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑の手入れ、施設周りの清掃を入居者の方をお願いしている。気晴らしに散歩や、島内巡りのドライブを行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 島外へ度々行くことは困難だが、家族の協力を得ながら、島外も含め外出の支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者個々に応じて、個別に外出支援されており、庭に植えたひまわりの苗を毎日楽しみに世話をしに出られる方や、島外の病院へ受診に行く際には、他の利用者も一緒に行かれたり、フェリー乗り場前の広場に週2回来る移動販売等にも買い物に出かけたりされている。事業所前を散歩する地元の方と一緒に散歩されたり、農協へ好きなおやつを買いに行かれたり、近くのバラ園を見学に行くこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望や状況に応じて、ご自身で管理してもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、ご本人の希望に応じて、手紙や電話のやり取りを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 室内の飾り付けを季節ごと(正月、ひな祭り、端午の節句等)に変更している。気候の良いときにはテラスでお茶ができるよう、テーブルを作成した。テラス前の花壇には季節の花を入居者と一緒に植えたり、木の手入れを行ったりしている。</p> <p>(外部評価) 居間やテラスからは、海が眺められ、季節感や開放感のある環境である。共用空間には、利用者がデイサービスの利用者と一緒に作った折り紙の朝顔や、地元の高校生が踊るお盆の「せんす踊り」の写真やバーベキュー時の写真等も飾られていた。いつでも手にできるように、本や週刊誌も置いておられる。トイレや風呂場は立体的な表示をして、場所間違いがないように工夫されていた。テラスには、テーブルと椅子が用意しており、地域の方が立ち寄り、お茶を飲んで帰るようなこともある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) テラスに長椅子、テーブルを置き外でゆっくり過ごせるよう工夫している。共有空間が狭いため、テレビを見る方、話したり歌を歌ったりする方等その時に合わせてスタッフがテーブルを分けている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) できる限り、自分の使い慣れた物を持参してもらっている。また、家族や自分の好きな物を飾り付けている。</p> <p>(外部評価) ご自宅では、たたみの上にベットを置いて暮らしておられた利用者には、事業所でもその環境が継続できるよう支援されたり、居室にほうきを準備して、3~4名の利用者をご自分で掃除をされている。テレビや時計、ラジオ、まごの手等、使い慣れたものを持ち込んでいる居室もみられた。備え付けの洗面台には、お気に入りの化粧品や石けんが置かれていた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ご本人の身の回りのことやできる事は自分で行ってもらっている。畑の手入れや玄関周りの掃除等、手伝いをしてもらっている。自分の部屋で洗濯ものが干したい方のために部屋に衣類掛けを設置している。</p>	